

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第3号

病害虫名：キュウリ退緑黄化病

(病原ウイルス：ウリ類退緑黄化ウイルス *Cucurbit chlorotic yellows virus* (CCYV))

1 発生作物 キュウリ

2 発生地域 南河内地域

3 発見の経緯

- (1) 令和3年8月、南河内地域のキュウリ施設栽培ほ場(2ほ場)において、葉に退緑・黄化症状を呈する株が発生した。地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所において Loop-mediated Isothermal Amplification (LAMP) 法を用いて検定した結果、CCYVによるキュウリ退緑黄化病であることが確認された。
- (2) 大阪府で本病が確認されたのは今回が初めてである。本病害の特殊報は、平成20年に熊本県で初めて発表され、これまでに22県で発表されている。

4 病原ウイルスの特徴

- (1) 本ウイルスは、*Crinivirus* 属に属し、タバココナジラミ(図1)により半永続伝搬(ウイルス媒介能力が数時間から数日間持続)する。経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないと報告されている。
- (2) メロン、キュウリ及びスイカで発生が確認されている。接種試験では、ウリ科、ナス科、アカザ科など広範囲の植物に感染することが確認されている。

5 病徴および被害

- (1) 発病初期は、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する(図2)。症状が進展すると葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化する。
- (2) 定植直後から収穫終了時まで発病し、草勢が低下するため収量が減少する。



図1 タバココナジラミ成虫
(地方独立行政法人 大阪府立
環境農林水産総合研究所提供)



図2 退緑黄化病の被害葉
(地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所提供)

6 防除方法

- (1) タバココナジラミの防除を徹底することが重要である。
- (2) タバココナジラミは雑草にも生息するため、ほ場内およびその周辺雑草を除去する。
- (3) 施設開口部への防虫ネット（0.4mm ネットなど）の被覆、黄色粘着シートの利用などにより、タバココナジラミ成虫の侵入防止と密度低下に努める。
- (4) タバココナジラミ（コナジラミ類）に適用のある農薬で防除する。タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (5) 発病株は見つけ次第抜き取り、ビニル袋に密閉して施設外に持ち出すなど、適切に処分する。
- (6) 施設内を除草し、2週間程度施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外への拡散を防ぐ。

◎タバココナジラミ（コナジラミ類）に対する防除薬剤については、下記 HP で確認してください。

- Web 版大阪府農作物病害虫防除指針
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)
- 農林水産省農薬登録情報提供システム
(<https://pesticide.maff.go.jp/>)